

名寄高新聞

バドミントン特集

北海道名寄高等学校新聞局

2020. 8. 26

発行責任者 内村 太一

支部バドミントン選手権大会: 稚内総合体育館

佐伯君が貫禄の3冠

牧野君は団体戦ダブルス2冠とシングルス3位



団体戦優勝を決め雄叫びを上げる高橋旺雅君

令和2年度名寄支部高等学校バドミントン選手権大会が7月23日から25日まで稚内市総合体育館で行われた。名高男子バドミントン部は、団体戦優勝、ダブルスでは佐伯瞭君(3A)・牧野伊織君(3A)ペアが優勝、高橋旺雅君(2C)・鈴木大斗君(2C)ペアが3位、シングルスでは佐伯君が優勝、牧野君が3位となり活躍した。

大会初日には団体戦が行われ、男子の部には6チームが参加。名高は佐伯君、牧野君、松村卓也君(2B)、後藤真君(2A)、高橋君、遠藤豪希君(1C)、三浦春希君(1C)のメンバーで臨んだ。

名高はシードされ、初戦は準決勝の豊富戦。第1ダブルスは佐伯・牧野ペアがスマッシュなど攻めのプレーで主導権を握り、ゲームカウント2-0で快勝。第2ダブルスの松村・後藤ペアもスマッシュやドロップなど多彩な攻撃で優位に立ち、2-0で勝利した。さらに、続く第1シングルスの高橋君も積極的にスマッシュなどで攻めて相手を圧倒し、2-0で完勝。3勝0敗で名高が勝利し、決勝に駒を進めた。

決勝は稚内戦。第1ダブルスには佐伯・高橋ペアが登場。第1ゲームは序盤からスマッシュ



団体戦で強烈なスマッシュを打つ佐伯瞭君(前は牧野伊織君)

やサービスエースなどで攻め立て、13-1と大きくリード。途中ミスなどで5連続失点するが、レシーブエースやヘアピンなどが決まり、21-12でこのゲームを奪う。第2ゲーム序盤は名高ペアのミスや相手のスマッシュなどで6-7とリードを許す。しかし、中盤から名高ペアのスマッシュが次々と炸裂。相手のミスも重なり21-10でこのゲームも連取し、ゲームカウント2-0で勝利した。

第2ダブルスの遠藤・三浦ペアはショットがネットにかかるなどのミスが続き、15-21、13-21と2ゲームを連取され、0-2で敗れた。

続く第1シングルスには牧野君が登場。第1ゲーム前半は相手に4連続得点を許すなど、7-11とリードされる。その後、コースにシャトルを散らし5連続得点などで反撃。19-19のタイに持ち込むが、最後はスマッシュがネットにかかり、20-22でこのゲームを奪われる。第2ゲーム前半は点を取り合う熱戦となり11-11。ここから牧野君のミスが続き5連続失点し、11-16。しかし、牧野君はここからスマッシュやドロップで7連続得点し、18-16と逆転。その後も試合は20-20と白熱したが、最後は牧野君がスマッシュを決めて、22-20でこのゲームを奪う。最終の第3ゲームも激しい攻防が続き、18-19と終盤を迎える。ここから牧野君は冷静にコースを狙って打ち、相手のミスを誘い逆転。21-19でこのゲームを取り、ゲームカウント2-1で激戦に勝利した。

続く第2シングルスには高橋君が挑む。第1ゲームは互いにスマッシュを打ち合う熱戦となったが、19-21で惜しくも奪われる。第2ゲームは前半、強気にスマッシュを打ち込み10-2と大きくリードを奪う。中盤にミスが続き16-13と迫られるが、後半はミスのない正確なショットで得点し、21-16でこのゲームを取り返す。第3ゲームは序盤からドライブ、スマッシュ、ハイクリアなど多彩な攻撃でゲームの主導権を握り、8-0とリード。中盤で相手に連続得点を許し15-12と迫られたが、最後まで攻めのプレーを貫き21-16でこのゲームも奪い、2-1で勝利した。

その結果、名高は3勝1敗で稚内に勝利し、新人戦に続く堂々の団体戦優勝を達成した。

男子ダブルスには名高から佐伯・牧野ペア、山本祐真主将(2C)・湧口晃矢君(2C)ペア、遠藤・三浦ペア、松村・後藤ペア、高橋・鈴木ペア、越史也君(1A)・川原優斗君(2C)ペアが出場。

1回戦では、山本・湧口ペア、遠藤・三浦ペア、高橋・鈴木ペアが勝利したが、松村・後藤ペア、越・川原ペアは惜しくも敗れた。2回戦では1回戦をシードされた佐伯・牧野ペアが山本・湧口ペアと対戦。実力に勝る佐伯・牧野ペアが2-0で勝利した。また、高橋・鈴木ペアも2-0で快勝。しかし、遠藤・三浦ペアは0-2で敗れた。準々決勝では、佐伯・牧野ペアが豊富ペアと対戦し、終始攻め続け2-0で完勝。高橋・鈴木ペアも利尻ペア相手に力強いプレーを見せて、2-1で勝利した。

準決勝でも佐伯・牧野ペアは強打とコースを突くショットで稚内の栗原・岩木ペアを圧倒。2-0で快勝し決勝に進んだ。高橋・鈴木ペアは稚内の吉田・齋藤ペアと対戦。互いに攻め合



渾身の力でジャンピングスマッシュを打つ牧野伊織君

う白熱の戦いを展開したが、1-2で惜敗した。高橋・鈴木ペアは、続く3位決定戦でも稚内の栗原・岩木ペアと熱戦を繰り広げたが、終始粘り強くシャトルを繋いだ高橋・鈴木ペアが2-1で勝利し、3位入賞を果たした。

佐伯・牧野ペアは決勝で稚内の吉田・齋藤ペアと対戦。正確なショットと力強いスマッシュで相手ペアを一蹴し、2-0で快勝。全試合ストレート勝ちの圧巻の優勝を飾った。

男子シングルスには名高から佐伯君、牧野君、山本君、高橋君、松村君、後藤君、鈴木君、湧口君、川原君、川崎天聖君(2A)、遠藤君、三浦君、越君の13人が出場。佐伯君、牧野君、高橋君、鈴木君、川原君、遠藤君は1回戦に勝利したが、他の選手は惜しくも敗退。2回戦では佐伯君、牧野君が2-0、高橋君が2-1で勝利したが、他の3人は0-2で敗れた。3回戦では高橋君が今大会準優勝の稚内・佐賀君に0-2で敗れたが、佐伯君は稚内大谷選手に、牧野君は美深選手に2-0で快勝。準々決勝でも佐伯君は美深選手に、牧野君は稚内選手に2-

0と実力を発揮。ともに準決勝に進んだ。

準決勝で佐伯君は稚内大谷の古草君と対戦。迫力の攻撃で2-0と圧勝し決勝に進出した。牧野君は稚内の佐賀君と対戦したが、第2ゲーム途中で左足を故障。痛みをこらえて試合を続けたが0-2で敗れた。3位決定戦を棄権すると思われた牧野君だが、テーピングを施して出場。稚内大谷の古草君に対して、コートを広く使った巧みなショットで優位に立ち、怪我を乗り越え2-0で勝利。見事3位となった。

佐伯君は決勝で稚内の佐賀君と対戦。強打にコースを狙う巧打を効果的に織り交ぜ、終始主導権を握って2-0で快勝。佐伯君は今大会の全試合で1ゲームも落とさぬ無敵振りを示し、昨年度の新人戦に続く、貫禄の3冠を達成した。

佐伯君は「3年生は休日のみの部活だったが、その分、練習の1つ1つに集中して取り組んだ。今大会は自分にとって最後の大会だったので、楽しむという気持ちが強かった。それを通して結果的に3冠を取ることができたので、とても充実感を感じている」と笑顔を見せた。



軽やかなフットワークでシャトルを追う松村卓也君

練習を重ね実力をつける 山本 祐真 主将

今大会は3年生の戦う姿を見る最後の機会だったのでその姿をしっかり見ることに、そして、誰が相手でも自分の力を出し切り勝利することを目標に臨んだ。

大会を振り返って、先輩たちの力の大きさ

を再実感するとともに、自分たち新チームはさらに強くならなければいけないと強く感じた。今大会での反省をもとに練習を重ね、実力を身に付け、次の大会ではベストを尽くし少しでも3年生に近付きたい。

感謝忘れず練習に励んで 濱中 聡志 監督

高体連がなくなり、代替大会ができるか不安な状況だった。しかし、3年生最後の大会が開催され、その中で彼らが全力を出し切って引退できたのは良かった。

男子は団体戦で優勝し、個人戦も3年生が優勝。これからチームの中心となる1・2年生もしっかり勝ち上がり結果を出してくれた。

今大会は高体連がなくなった中、色々な人

たちの力添えでなんとか開催できたもの。選手たちには、一生懸命に練習した成果を発揮する場所つくってもらったことに改めて感謝の気持ちを持ってほしい。そして、その気持ちを忘れず、これから大会の運営に関わる人たちや日頃から応援してくれる人たちに恩返しするためにも、練習の仕方や大会に臨む姿勢をしっかり持ち続けてほしい。



コースを狙いサーブを放つ後藤真君(後ろは松村卓也君)